

再び人権と報道の議論を

鹿児島県警本部長の犯人隠匿を内部告発した県警の前身治安安全部長はキシャクラブメディアではなく札幌の雑誌記者にリークした。沖縄県警などが県警クラブで広報しない米兵による強かん事件は半年以上も隠蔽された。キシャクラブメディアの記者が権力を監視しているというのはまったくの虚偽だ。

1984年から10数年続いた「人権と報道」の議論がまるでなかったような現状だ。日本のキシャクラブメディア（内閣記者会常勤幹事社である新聞・通信社、テレビ局の計19社が中心）の報道は権力監視ではなく、権力に先んじて、権力の広報を務めているように見える。国際標準のジャーナリズムはこの国にない。権力を懐疑的に見る姿勢は限りなくゼロに近く、むしろ、権力機構の一部となつて

いる。

現在の日本には「報道の自由」があるのに、権力監視機能をもたず、自ら進んで「大本営発表」報道、翼賛・産業報国的な活動を行っているという意味で、戦前・戦中のメディアより悪質だと言える。

挟み撃ち

メディアは、権力と市民の挟み撃ちに遭っている。これを打開するには、権力には厳しく、市民に優しいジャーナリズムを創生するしかない。ジャーナリズムを創成し、メディア労働者の人権を守るため、欧州などで実践されている匿名報道主義を導入し、取材と報道についての行動指針を策定し、そのガイドラインを順守しているかどうかの審判を下す仕組みをつくるしかない。再び、人権と報道の議論が起きることを期待したい。

人報連50年担った映画監督山際永三さん逝く

いつかこういつ時が来るとは覚悟していたが、残念な知らせだった。私が代表世話人を務める「人権と報道・連絡会」人報連、一九八五年七月設立）会員の岩崎風水氏から、昨年十一月一日、山際永三さんが亡くなったという連絡があった。

九二歳、老衰での死去だった。山際さんにはできるだけ長生きして、山際さんしかできない文化論、実存哲学を軸にしたマスメディア改革運動と冤罪者の救済活動を続けてほしいと願っていたので、早過ぎる死だと思った。十二月三日に通夜、四日に告別式があった。山際さんは

今も石破政権と自民が支持され、第二自民党を自称する維新が勢力を増す政治状況が生まれたのは、行政権力を監視すべきジャーナリズム（報道）とアカデミズム（大学）が全く機能せず、権力の補完勢

人報連再起動の機会に

山下幸夫弁護士

浅野健一さんの「犯罪報道の犯罪」は衝撃的で、それまで持っていた報道についての疑問点が、匿名報道主義の導入で解消できると感じました。この間、メディアは、呼び捨て呼称を止めるとか、いくつかわつたところもありましたが、常に大きな事件が起きるたびに悪い方向に戻るということが繰り返されてきました。キシャクラブを通じて警察発表の受け入れとマスコミによる匿名報道を変えなければならぬ。私たち市民が声を上げ、改善を求め続け

力となつていくからだ。権力に抗うべき労働組合、労働団体の多くも本来の機能を果たしていない。マスメディアが権力監視を怠り、ロシア・ウクライナ戦争に乗じて、民衆に「次は東アジア

なければならぬ。きょうの集まりを、人権と報道・連絡会を再起動する機会にしたいと思っています。

無罪を報道しない公安報道

QRC山中幸男さん

土田・日石・ピース缶爆弾事件では全員、無罪の結論を得た。しかしその中で検事として大量の虚偽の自白調書を作り、最大の責任者であった神崎武法氏（後の公明党代表）が、責任を取ったとか、報道で弾劾されたとかということとは、無罪判決後も一切ない。革労協の「ゲリラ事件」で2014年に逮捕された元活動家は長年の裁判で無罪を確定さ

だ。「日本は明日のウクライナ」と煽り、戦争に起因する工

せた。しかし無罪の報道は一切ない。こうした状況とも徹底的に闘っていききたい。

角川人質司法とメディア

支援者・伊達百合さん

「東京五輪汚職」で角川歴彦さんは、無罪を主張したために226日間、身柄拘束され、2024年6月、角川人質司法違反訴訟を起こしました。取り調べの過程で、報道が出る前なのに、角川さんの家の前にメディアの人がいっぱい来ました。検事は「上の方がリークした」と言いました。その後、報道され、集まった報道陣の代表質問を受けたら検事に「あんなことしやだめ

だ」と言われ、翌週、角川さんは逮捕されました。代表質問を受けて自分が無実であると語ったから罪証隠滅の恐れがあるということでした。これがメディアと権力の実態なんだと分かりました。

「つばさの党」事件に注目

田中正道さん

昨年、つばさの党の黒川敦彦代表ら3人が、公職選挙法違反容疑で逮捕されました。小池・東京都知事の街頭演説を妨害したというのですが、同じ候補者同士の言い争いなのに片方だけが逮捕された事件で、無罪を主張しています。注目してください。

大坂正明さんは無実だ

星野大坂・杉浦文俊さん

1971年11月の「渋谷暴動闘争」で星野文昭と大坂正明さんは殺人罪をでっち上げられました。星野さんは2019年に医療刑務所で亡くなりました。国家によって殺されたのです。大坂さんは、まったく見ず知らずの学生の目撃供述によってでっち上げられました。今も獄中で無実を訴え闘っている大坂さんを何としても取り戻したい。

私に、小野さんは無実ではな

いかに訴えた。山際さんは小

野さん救援会を立ち上げ、救

援連絡センターが公安労働・

政治事件だけでなく、一般刑

事事件の被疑者・被告人の支

援に取り組み契機になった。

山際さんと出会ったこと

で、私の人生が変わった。山

際さんが創った小野さんの著

書「でつち上げ 首都圏連続

女性殺人事件」（社会評論社、

今年中には次回定例会

詳細はHPをチェックを

人報連の定例会は2020年4月に「コロナウィルス報道検証」をテーマに開催した。その後、コロナ禍と山際永三事務局長の体調不良で休会していましたが、今年中に再開の予定です。講師は冤罪・大川原化工機事件の刑事・民事裁判の当事者または弁護

士を招く予定で準備をしています。勾留中にがんが見つかり、起訴取り消し前に死去した相嶋静夫氏の長男の方に来てもらいたいと思っています。テーマは「でつちあげの共犯者・メディアも起訴前報道の検証を」考えています。土曜日の午後、東京神田三崎町のたんぼ舎セミナー室で開きます。決まり次第、HPなどで発表します。なお、たんぼ舎は昨年11月、事務所を移転しています。（浅野）